

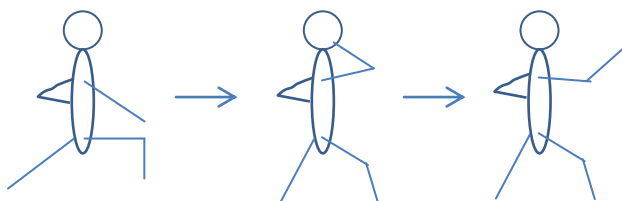
2012.3.11 野口会形講習会 確認事項

2012年3月

全日本空手道松濤館野口会事務局

平安初段

: 鉄ついをする前、自分の右腕が相手の右左のどちらの手でとられたとしてもその手を外せるような引き方をする。(肘を同じ位置で固定するように引く) また、鉄ついには相手の鎖骨に落とす。



: 気合の入れどころは初めの3連続上段受けの3回目と形の最後の後屈手刀受けの部分である。

: 3連続上段受けの一番初めの上段受けの前の左手による取りは素早く行う。

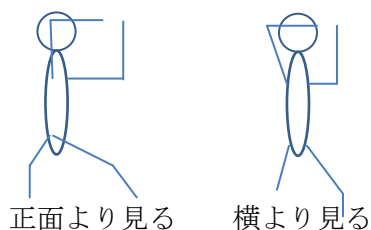
これは、平安二段の最後の上段受けの際の取りも同様である。

: 初段は基本中の基本であるため、形の中では以下のことを忘れない。

- ・ 下段払いは拳をにぎったまま肩まで引手をしっかり取ってから受ける。
- ・ 上段受けは互いの肘と肘が交差するような軌道を取り受ける
- ・ 上段受けで額にこぶしはない、腕がくる。
- ・ 上段受けで自分の額に腕がつくような受けはない、自分の額から拳2つ分くらいのところを受ける。

平安二段

: 一番初めの受けでは額のところに持ってくる受けは横からの攻撃を受けられるような上段受けのように受ける。内受けもしっかり受ける。



: 最初の気合を入れる際の抜き手動作では後屈手刀受けをした左手を軽く上に持って行き、相手の手を押しえつけたような動作をしてから抜き手をする。

: 後ろ正面になって回し受け（払い）→内受けの際、回し受け（払い）も大きく相手の前蹴りを払い、その後の内受けでは腰もしっかり捻って中段への攻撃をしっかり受ける。

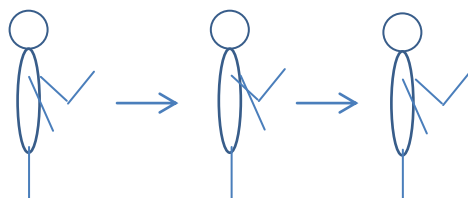


相手の前蹴りをしっかり払う（拳は握る、甲が上）

: 最後の2つの上段受けの前の引手の際は下半身を動かさず、上半身を斜め面 45° に向ける。

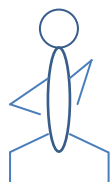
平安三段

: 初めに横に後屈内受けした後の2連続内受け+下段払いは一度閉塞立ちをしっかり作ってから受け動作をする。つまり横向きの閉塞立ちだけで一挙動となる。（閉塞立ちと同時に受け動作を行わない）



閉塞立のとき右手を下段払いの位置に置き、その後2連続内受け+下段払い

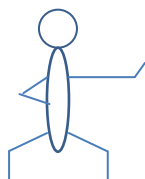
: 後ろ正面へ閉塞立の際、腰に取る両手は拳を積極的に腰に付けない、その後踏込んで肘で受ける動作では自分の体より前の方へ肘を出すように受ける。



騎馬立の後ろより踏込んだところを見る

: 後ろ正面への追い付きの前の引手は縦手刀であるのでしっかり手刀の形でとる。

（手のひらを真直ぐ横に伸ばすのではない）



平安四段

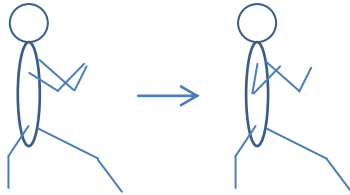
- : 初めの受けは平安二段の時と同様
- : 蹴上げ後の猿臂打ちでは肘を自分の正中線まで持って行くように打つ
- : 次の前蹴り前の左上段受けは猿臂打ちを受けた左腕を下げないでそのまま上段受けする。
同時技の右手刀は相手の鎖骨を打つ、決して手を水平にして首を打つわけではない。



上から見る：左図ではなく

右図

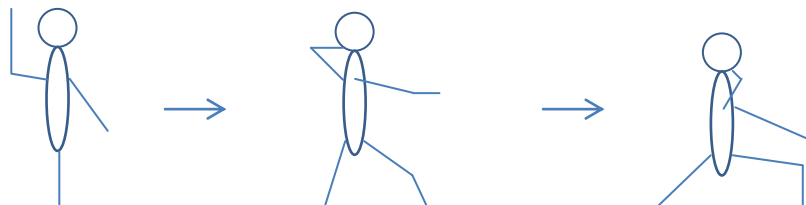
- : 後ろななめ 45° 後屈の掻き分けのとき、両腕は同じ位置でなく前足のある手は前の方にあり、後ろ足のある腕は後ろの方に引っ張り込むように掻き分ける。



左図のように掻き分けは水平にそろえない右図のように後ろの腕は引く

平安五段

- : 上段十字受けの時は心もち手前に引いてから十字受けする。
- : 次の引き落とし右腕を引手を取るような引きはしないそのまま下に落とすようにする。
- : 後ろ正面への振り向き下段払いはしっかり首の横に引手を取り、踏込と同時に下段払いをする。
- : 最後の金的への攻撃は体の左側を正面に向けた閉塞立を右に向けた閉塞立ちに立ちなおすようなことをせずに正面を向くとともに攻撃前の引手体勢になる。



横向き

そのまま正面向き

正面へ攻撃